

シリーズ

“キラリ企業”の現場から 第15回

公社のさまざまな支援サービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業の現場から”。第15回目は、ナノ粒子を複合化した「粒子設計技術」で業界をリードする株式会社奈良機械製作所（大田区）を訪問し、取締役副社長の田久保隆幸氏にお話をうかがいました。

同社は、当公社の福利厚生事業をはじめ、産学連携や知的財産に関する助成制度等をご利用いただいております。

粉体複合化技術で世界をリードする!!

～ナノ粒子複合化のトップ企業を目指して～

株式会社奈良機械製作所

ラスコー壁画の思いを受け継ぐ

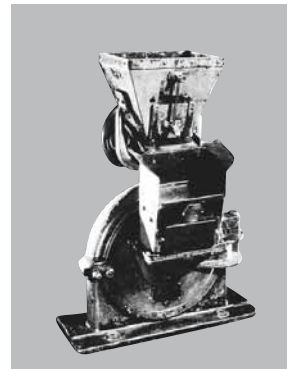
今から約70年前、フランス南部の寒村にある鍾乳洞の地中深くで発見されたラスコー洞窟の壁画。それが今から1万5千年以上もの昔、旧石器時代後期のクロマニョン人によって描かれた壁画である。この有名なラスコー洞窟には、数百もの動物・人間・幾何学模様が、鉱石や土を粉にした顔料等によって描かれている。

奈良機械製作所はこれまで食品や医薬品をはじめ、金属材料、電気・電子材料、ファインセラミックス、バイオテクノロジーなどの幅広い分野で、その卓越した「粉」に関する技術を活かしてきた。それゆえ田久保氏は、「我々の文明の発展を『粉』なしで語ることはできない、『粉の力』を未来の文化の創造に貢献したい」と粉に託した思いを熱く語る。

変わらぬパイオニア精神

同社の歴史は、1924年（大正13年）の奈良商店（品川区）創立に始まる。創業者は奈良社長の父親である奈良自由造（じゆうぞう）氏である。集まった技術者達は、生活と「粉」との関わりに注目し、「粉粒処理技術の近代化」という未開拓の分野に取り組む。その結果、翌年秋には、国産第一号の「高速度衝撃式粉碎機」が誕生した。

当時の粉碎機は、石臼、スタンプ式で、物体を高速度で粉碎して微細な粉体にするという同機の開発は画期的なものであった。その後は、食品、鉱工業、農薬、飼料、化学製品等の粉碎機として使用され、「奈良式粉碎機」の呼び名は、高速衝撃式粉碎機の代名詞として使われるようになった。この創業時のパイオニア精神は、現在でも受け継がれている。



国産初の高速度衝撃式粉碎機
1号機

ニーズの多様化を形に

同社は一貫して技術中心の「開発型企业」としての道を歩み続け、粉粒体処理技術と装置を各業界に提供してきた。

現在、粉粒体処理に対する時代のニーズはより高度なものになり、物を粉碎して作った粉体だけでなく、粉体の表面を加工したり、粉体同士を接合することにより生まれる新たな性質の粉体が必要とされている。こうしたものは、特にエレクトロニクスやバイオテクノロジーなどの先端技術分野でのニーズが高く、それに応えるべく、日々研究開発に取り組んでいる。同社には、学会などの場で社員が堂々と研究発表を行うなど、専門性を持った人材が多くいる。同社が先端技術を開発し、成功を収めてきた証である。

世界戦略機「ハイブリダイゼーションシステム(NHS)」の開発

粉粒体処理は、先端技術分野だけでなく、身近なものにも利用されている。例えば、携帯電話やデジタルカメラ用のリチウム電池である。ここで使われている粉体を作るには、2種類の粒子を接合させる高度な融合技術が必要とされる。

こうしたニーズに応え開発したのが、同社の世界戦略機「ハイブリダイゼーションシステム」である。この装置は粒子に他の粒子を打ち込んだり、粒子に膜をコーティングするなど、様々な加工を短時間で行うことが可能である。



ハイブリダイゼーションシステムと
田久保副社長

この装置は「世界戦略機」の名のとおり、すでに海外での特許も登録済みである。公社のさまざまな事業を利用いただいている同社であるが、本件についても、公社の東京都知的財産総合センターの相談や助成金（外国特許出願費用助成事業）を有効に活用している。

良好な労使関係が築く企業風土 “NARAの人財づくり”

同社の企業理念には、「利益の配分六角形」が存在する。会社が得られた利益は、「顧客・仕入先・経営者・地域社会・株主・従業員で配分する」という考え方である。創業以来、この考え方を踏襲し、労使間で良好な企業風土“社員はファミリー”を築いてきた。

その企業風土は人材の採用や定着にも表れている。

成長を続ける同社は、人材の募集を毎年行っている。採用するにあたっては、技能もさることながら、『基本はコミュニケーション能力』であるとし、その点を重視している。加えて、同社は約30年前から女性の採用を積極的に行っており、当時の製造業としては先進的企業とも言える。社内では「女性が働きやすい、働き続けることができる」体制を整えており、結婚や出産によって退職する例は少なく、その勤続年数は長い。

また、福利厚生面でもその風土は生きており、企業としていち早く社員の住宅融資制度を採り入れたり、公社の福利厚生制度「JOYLAND（ジョイランド）」などを活用している。

「JOYLAND」に加入することにより、遊園地などの多くの遊園施設が格安に利用できるため、社員に好評である。また、少ない掛金で、他の保険に加入していても万一の場合に別途見舞金が支給される公社の「火災共済」にも多くの社員が加入しており、生活の安心につながっている。「公社の福利厚生制度は、社員の採用時にもメリットになり、現社員にとっても役立っている」と田久保副社長は話す。

「人は宝」、これからも同社は「人財づくり」に注力していく。



福利厚生は人財づくりに貢献

愛され信頼される企業づくりにNARAの挑戦が続く

奈良自起（よりおき）社長は、日々社員に対して「環境に優しい粉体機を設計せよ」と訓示している。全世界へ向けた地球環境保全活動を推進している同社の開発製品のひとつが、各企業などで日々出される大量の産業廃棄物（粗大ごみ、燃え殻、汚泥、廃油、廃アルカリなど）を乾燥させ、容量を小さくするとともに、有機飼料などの有用な副産物を作り出す処理装置である。

また同社は、「環境・公害対策に利用される装置を製造する企業としての社会的責任」や「トップランナーとして業界のさきがけとなる」ため、平成12年にISO14001を取得し、環境方針のもとで、環境マネジメントを実施している。ISO認証取得はプロジェクトメンバーへの負荷（現業への影響）が大きいなど苦労も多かったが、環境への取り組みに対するトップの強い意志が明確になり、メンバーを含む社員の意識もアップするなどの成果があった。

こうした同社の取り組みには、まさに80年前、創業者が創った経営理念「愛され信頼される企業づくり」を忠実に守り継承しているという姿勢がよく表れている。

さらなる発展に向けて、ワールドワイドに羽ばたく奈良機械製作所の挑戦はまだ続く。

（企業福利厚生課 村松正夫）



本社ビル（大田区城南島）

企業名：株式会社奈良機械製作所

代表者：奈良 自起

資本金：4,000万円 従業員：150名

本社所在地：東京都大田区城南島二丁目5-7

T E L : 03-3790-8011

F A X : 03-3790-8055

U R L : <http://www.nara-m.co.jp/>